

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月11日

上場会社名 アネスト岩田株式会社

上場取引所 東

コード番号 6381 URL <http://www.anest-iwata.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 壺田 貴弘

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長

(氏名) 飯田 紀之

TEL 045-591-1182

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	8,232	△38.6	220	△86.2	350	△79.8	135	△87.0
21年3月期第2四半期	13,412	—	1,600	—	1,733	—	1,038	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	2.94	—
21年3月期第2四半期	22.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	23,357	17,059	70.4	356.21
21年3月期	23,482	16,821	69.2	352.38

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 16,432百万円 21年3月期 16,256百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	6.00	—	2.00	8.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	△22.0	500	△75.2	700	△65.5	300	△78.2	6.50

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 [(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 有

[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	46,165,505株	21年3月期	46,165,505株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	34,078株	21年3月期	32,376株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	46,132,048株	21年3月期第2四半期	46,129,606株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年8月11日に公表しております連結業績予想は、通期について修正しております。
2. 業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、一部の輸出、生産に回復の動きがみられたものの、設備投資の回復は遅れ、厳しい状況が継続しております。

世界経済は、アジアを中心に回復の動きが広がっているものの、米国や欧州の景気は依然低迷しており、引き続き深刻な状況にあります。

当業界におきましても、回復の傾向は見えたものの、景気後退による設備投資意欲の低下は容易に回復せず、需要は継続して低迷しております。

このような状況のなか、当社グループは市場ごとのニーズをとらえ、有望市場の開拓・深耕に積極的に経営資源を投入し、諸施策を実行してまいりました。

新製品開発におきましては、圧縮機では省エネ効果が注目されているESTIBO（エスティボ：「Energy Saving Technology & Innovation Booster」）省エネ技術革新者”を意味するブースターコンプレッサの総称)の新機種を発売いたしました。真空機器では中真空領域向けの普及機DVSL-100シリーズのモデルチェンジやガス回収用特殊スクロール真空ポンプの開発、二次電池・燃料電池製造装置向け真空ポンプの開発を行いました。塗装機器では高効率の塗料攪拌機AMM-6/7シリーズの発売や欧州で好評を博しているピニンファリーナ社デザインによる自動車修理市場向けの水性塗料用最高級スプレーガン（WS-400シリーズ）を発売いたしました。

販売におきましては、新市場・新販路の拡大を図るため営業員の再配置を実施し、お客様密着型営業への転換を図ってまいりました。

また、購入費の削減や生産工程の改善などの原価低減策の実行や役員の報酬及び管理職の給与の減額、経費削減など利益の確保に努力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高8,232百万円、営業利益220百万円、経常利益350百万円、四半期純利益135百万円となりました。前年同四半期連結累計期間対比では売上高△38.6%、営業利益△86.2%、経常利益△79.8%、四半期純利益△87.0%と減少いたしました。当第2四半期連結会計期間は、当第1四半期連結会計期間と比較し、売上高20.8%増、営業利益は黒字化、経常利益215.1%増、四半期純利益82.3%増と大幅に増加し、回復傾向にあります。

①製品別売上高は次の通りです。

製品別売上高

(単位:千円)

製品区分	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間		前年同四半期比増減	
	平成20年4月1日～平成20年9月30日		平成21年4月1日～平成21年9月30日			
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
圧縮機	5,849,458	43.6%	3,842,446	46.7%	△2,007,012	△34.3%
真空機器	834,173	6.2%	536,064	6.5%	△298,109	△35.7%
塗装機器	5,082,306	37.9%	3,107,096	37.7%	△1,975,209	△38.9%
塗装設備	1,646,559	12.3%	747,361	9.1%	△899,198	△54.6%
計	13,412,497	100.0%	8,232,968	100.0%	△5,179,529	△38.6%

＜ 圧縮機製品 ＞

国内市場では、生産活動の一部は回復したものの設備投資の回復まで至らず売上は低迷いたしました。海外市場においても国内と同様の理由により売上は低迷いたしました。当第2四半期会計期間は、当第1四半期会計期間との比較においては大幅に改善し回復傾向にあります。

この結果、売上高は3,842百万円と前年同期と比べ減少いたしました。

＜ 真空機器製品 ＞

国内市場は、7月以降に生産活動の改善傾向が見られたものの依然として設備投資の抑制は継続しており低迷いたしました。海外市場は、設備投資の抑制に加えて円高の影響もあり低迷いたしました。全体的に低調な中、前年度に発売した大形機のスクロール真空ポンプISP-1000や新製品の小形機DVSL-100Cは上向き傾向にあります。

この結果、売上高は536百万円と前年同期と比べ減少いたしました。

＜ 塗装機器製品 ＞

国内市場は、企業の設備投資抑制の影響により全体的に低調に推移いたしました。特に環境装置は大幅に減少いたしました。海外市場は、インド・中国・ブラジル等新興国並びに豪州における回復はあるも、欧米・東南アジアは引き続き低水準にて推移いたしました。

この結果、売上高は3,107百万円と前年同期と比べ減少いたしました。

＜ 塗装設備製品 ＞

国内市場は、景気後退により生産設備が過剰となり新設の大形物件は少なく、新幹線を含む鉄道車輛など既存設備の更新・改造等が中心となりました。海外市場は、全体的には国内と同様の傾向ですが中国や東南アジアの一部に回復の兆しが見られました。

この結果、売上高は747百万円と前年同期と比べ減少いたしました。

②所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

＜ 日本 ＞

国内景気は、生産活動に復調の兆しは見えてきたものの設備投資の回復は遅れており、厳しい状況が継続しています。当社グループは市場ごとのニーズをとらえた販売に注力いたしましたが、売上高7,035百万円、営業利益456百万円と前年同期と比べ売上高・利益ともに減少いたしました。

＜ ヨーロッパ ＞

景気の回復が遅れ、売上高は722百万円、営業損失46百万円と前年同期と比べ売上高・利益ともに大幅な減少となりました。

＜ その他の地域 ＞

中国・インド・米国を含めた地域は、売上高1,472百万円、営業損失26百万円と前年同期と比べ売上高・利益ともに減少いたしました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は23,357百万円となり、前連結会計年度末に比べ125百万円減少となりました。このうち、流動資産は12,440百万円となり、前連結会計年度末に比べ949百万円減少いたしました。これは主に、「現金及び預金」が575百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における負債は6,297百万円となり、前連結会計年度末に比べ363百万円減少となりました。これは主に、「支払手形及び買掛金」が318百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は17,059百万円となり、前連結会計年度末に比べ237百万円増加となりました。これにより自己資本比率は70.4%となり前連結会計年度末に比べ1.2ポイントの増加となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前年同四半期連結累計期間末に比べ1,533百万円減少し、3,537百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金収支は532百万円の収入となり、前年同四半期連結累計期間に比較し460百万円減少いたしました。その主な要因は、「税金等調整前当期純利益」が1,385百万円減少したことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金収支は2,114百万円の支出となり、前年同四半期連結累計期間に比較し支出が2,121百万円増加しました。その主な要因は、「定期預金の増減額」による1,987百万円支出の増加などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金収支は127百万円の支出となり、前年同四半期連結累計期間に比較し支出が246百万円減少いたしました。その主な要因は、「配当金の支払額」の支出が251百万円減少したことなどによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境は、主要なお客様である製造業の生産設備が過剰となり設備投資を抑制したため、売上高が減少し厳しい環境下にありました。しかし、世界的な在庫調整の進展や輸出の回復により生産活動は回復基調にあり、今後の設備投資の回復が期待されます。この生産活動・設備投資の今後の回復状況が、経営成績に影響を及ぼします。

当社グループといたしましては、利益の確保を経営戦略・経営行動の最優先事項として、あらゆる経費削減を実施して最適の効率とコストを追求してまいります。一方、長期的な視点から有望な海外市場に対する投資、国内市場における有望市場の開拓・深耕、新製品開発には継続的に経営資源を投入し、業績の回復に全力をあげて取り組んでまいります。

平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績は、国内・海外共に緩やかな景気回復が見られるものの、設備投資抑制傾向は平成22年3月期第3四半期及び同第4四半期会計期間も継続し、売上高の回復は遅れるものと考えます。営業利益・経常利益・当期純利益・1株当たり当期純利益は、全社的な固定費削減や原価低減活動などによる収益性の改善が図られ、平成21年8月11日の平成22年3月期第1四半期決算短信にて公表した予想を大きく上回る見通しです。

平成22年3月期の連結業績予想は、連結売上高17,500百万円、連結経常利益700百万円、連結当期純利益300百万円を見込んでおります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

下記の簡便な会計処理を適用しており、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理は適用しておりません。

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。四半期連結会計期間末における棚卸資産の簿価切下げについては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法を採用しております。また、営業循環過程から外れた棚卸資産については、著しい変化がないと認められる限り、前連結会計年度末時点における処分見込価格により計上する方法を採用しております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産の減価償却費につきましては、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①四半期連結損益計算書関係

前第2四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めていた「固定資産除売却損」は、重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間においては区分掲記しております。

なお、前第2四半期連結累計期間における「固定資産除売却損」は13,350千円であります。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,690,459	5,265,780
受取手形及び売掛金	3,714,023	4,003,496
商品及び製品	1,850,916	1,781,103
仕掛品	126,656	121,387
原材料及び貯蔵品	1,108,279	1,182,118
繰延税金資産	452,850	456,938
その他	540,472	616,036
貸倒引当金	△43,406	△37,060
流動資産合計	12,440,254	13,389,800
固定資産		
有形固定資産	5,643,995	5,511,616
無形固定資産	68,781	44,194
投資その他の資産		
投資有価証券	2,948,616	2,606,918
繰延税金資産	888,834	948,415
その他	1,371,933	987,043
貸倒引当金	△5,255	△5,255
投資その他の資産合計	5,204,129	4,537,122
固定資産合計	10,916,906	10,092,933
資産合計	23,357,160	23,482,733
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,646,215	1,964,297
短期借入金	274,796	247,389
未払法人税等	140,371	10,304
賞与引当金	532,451	513,359
その他の引当金	115,776	172,002
その他	932,658	1,083,405
流動負債合計	3,642,270	3,990,758
固定負債		
長期借入金	82,809	96,956
退職給付引当金	2,375,774	2,455,880
その他	196,825	117,646
固定負債合計	2,655,409	2,670,483
負債合計	6,297,680	6,661,241

（単位：千円）

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,354,353	3,354,353
資本剰余金	1,380,380	1,380,380
利益剰余金	12,029,939	11,987,070
自己株式	△19,463	△19,299
株主資本合計	16,745,209	16,702,504
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	104,069	81,118
為替換算調整勘定	△416,924	△527,333
評価・換算差額等合計	△312,855	△446,215
少数株主持分	627,126	565,203
純資産合計	17,059,480	16,821,492
負債純資産合計	23,357,160	23,482,733

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	13,412,497	8,232,968
売上原価	7,934,161	5,082,440
売上総利益	5,478,335	3,150,527
販売費及び一般管理費	3,877,584	2,929,889
営業利益	1,600,751	220,638
営業外収益		
受取利息及び配当金	39,924	30,756
持分法による投資利益	107,306	49,657
その他	109,698	91,896
営業外収益合計	256,929	172,311
営業外費用		
支払利息	27,165	8,758
為替差損	78,485	18,316
その他	18,838	15,605
営業外費用合計	124,489	42,680
経常利益	1,733,191	350,269
特別利益		
貸倒引当金戻入額	24,562	502
その他	3,093	4,202
特別利益合計	27,655	4,704
特別損失		
固定資産除売却損	—	11,192
たな卸資産評価損	47,419	—
退職特別加算金	—	28,940
その他	13,350	—
特別損失合計	60,769	40,132
税金等調整前四半期純利益	1,700,077	314,842
法人税、住民税及び事業税	576,741	114,916
法人税等調整額	75,364	53,733
法人税等合計	652,105	168,650
少数株主利益	9,738	10,764
四半期純利益	1,038,233	135,428

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,700,077	314,842
減価償却費	276,898	279,582
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△12,017	4,925
賞与引当金の増減額（△は減少）	△504	19,106
製品保証引当金の増減額（△は減少）	11,712	△38,386
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△216,672	△84,196
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△20,700	△17,840
受取利息及び受取配当金	△39,924	△30,756
支払利息	27,165	8,758
持分法による投資損益（△は益）	7,862	30,644
固定資産除売却損益（△は益）	10,256	7,137
売上債権の増減額（△は増加）	492,725	363,036
たな卸資産の増減額（△は増加）	329,027	70,029
仕入債務の増減額（△は減少）	△748,437	△410,239
未払消費税等の増減額（△は減少）	46,364	△43,290
その他	△341,200	△119,144
小計	1,522,633	354,209
利息及び配当金の受取額	39,924	30,756
利息の支払額	△27,165	△8,758
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△541,589	156,614
営業活動によるキャッシュ・フロー	993,802	532,821
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額（△は増加）	487,623	△1,500,020
有形固定資産の取得による支出	△250,731	△314,434
有形固定資産の売却による収入	14,084	7,952
投資有価証券の取得による支出	△219,706	△300,000
貸付けによる支出	△40,600	△17,781
貸付金の回収による収入	10,462	12,587
その他	5,751	△3,011
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,884	△2,114,708
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	2,049	25,162
ファイナンス・リース債務の返済による支出	—	△12,299
長期借入金の返済による支出	△35,543	△27,648
自己株式の取得による支出	△663	△683
自己株式の売却による収入	659	227
少数株主からの払込みによる収入	5,882	—
配当金の支払額	△345,197	△93,624
少数株主への配当金の支払額	△1,013	△18,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	△373,827	△127,398
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35,062	35,512
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	591,796	△1,673,772
現金及び現金同等物の期首残高	4,375,261	5,210,922
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	103,336	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,070,394	3,537,149

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

当社及び連結子会社は、販売市場、製品用途等の類似性から判断して同種・同系列の圧縮機、真空機器、塗装機器及び塗装設備を専ら製造販売しているため、事業の種類別セグメント情報の記載をしておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

当社及び連結子会社は、販売市場、製品用途等の類似性から判断して同種・同系列の圧縮機、真空機器、塗装機器及び塗装設備を専ら製造販売しているため、事業の種類別セグメント情報の記載をしておりません。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

(単位：千円)

	日本	ヨーロッパ	その他の地域	計	消去又は全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	10,482,846	1,362,908	1,566,742	13,412,497	—	13,412,497
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,099,850	68,710	56,576	1,225,137	(1,225,137)	—
計	11,582,697	1,431,618	1,623,318	14,637,635	(1,225,137)	13,412,497
営業利益	1,662,410	82,651	79,018	1,824,079	(223,328)	1,600,751

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) ヨーロッパ……イタリア・フランス・イギリス・スウェーデン・スペイン

(2) その他の地域……アメリカ・インド・中国・タイ・韓国

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

(単位：千円)

	日本	ヨーロッパ	その他の地域	計	消去又は全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	6,084,186	696,451	1,452,330	8,232,968	—	8,232,968
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	951,069	26,401	20,589	998,061	(998,061)	—
計	7,035,256	722,853	1,472,920	9,231,029	(998,061)	8,232,968
営業利益又は営業損失(△)	456,536	△46,213	△26,318	384,004	(163,365)	220,638

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) ヨーロッパ……イタリア・フランス・イギリス・スウェーデン・スペイン

(2) その他の地域……アメリカ・インド・中国・タイ・韓国・オーストラリア

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	ヨーロッパ	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	1,874,910	1,882,698	1,267,794	5,025,403
II 連結売上高(千円)				13,412,497
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	14.0	14.0	9.5	37.5

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) ヨーロッパ……イタリア・フランス・イギリス

(2) アジア……中国・インド・韓国・タイ

(3) その他の地域……アメリカ・オーストラリア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域向けの売上高であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	ヨーロッパ	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	890,523	1,183,867	967,672	3,042,062
II 連結売上高(千円)				8,232,968
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.8	14.4	11.8	36.9

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) ヨーロッパ……イタリア・フランス・イギリス

(2) アジア……中国・インド・韓国・タイ

(3) その他の地域……アメリカ・オーストラリア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域向けの売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。